

令和2年度 本部事務局事業報告

1 事業の概要

当福祉会は、昭和50年の設立以来、朝霞市、志木市、和光市の広域的な社会福祉事業の主たる担い手として、安心・安全で多様な福祉サービスを展開し、地域福祉の向上に努めてきました。令和2年度においても「みつばすみれ学園」、「すずらん」の障害児・者の直営2施設をはじめ、和光市から「ほんちょう保育園」、「にいくら保育園」の委託を受け運営するとともに、朝霞市の指定管理者として「特別養護老人ホーム朝光苑」、受託事業として「地域包括支援センター朝光苑」の運営を行いました。

福祉会を取り巻く環境変化に対応

（防災対策）

「みつばすみれ学園」と「すずらん」の2施設がある複合施設は、新河岸川沿いに立地しており、志木市からも浸水想定区域内に立地する要配慮者施設として指定されているため、洪水時において利用児・者が円滑かつ迅速に避難でき安全が確保できるよう、新たに避難確保計画を策定し、気象状況に応じた防災体制の確立と役割分担、情報収集と情報伝達の方法、避難誘導の方法と避難先について決めました。また、各施設の防災マニュアルもそれぞれの特性に応じた内容に改めましたが、当初計画していた「朝霞地区福祉会防災計画」の見直しが年度内に達成できなかったため、令和3年度中の改正を目指します。

（施設で行っている事業の見える化）

就職を希望する方に対しては、当福祉会の特徴である障害・保育・高齢の3分野を通じた各施設間の相互関係について関係図を新たに作成し、職員募集案内で紹介しました。

実習を希望する方に対しては、ホームページ上で各施設で提供しているサービスの特徴を掲載することで、希望者が関心のある分野で実習できるよう工夫しました。

（人材育成）

新人職員研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から時間を半分に縮小し開催しましたが、講師の看護師から受講者8人に対し新型コロナウイルス感染防止対策について講義を行い、コロナ禍において安全に業務に専念できるよう、感染予防の具体策やマスクの必要性について理解を深めました。

（新型コロナウイルスへの対応について）

感染防止のため、手洗い消毒や検温の徹底、換気や区分けの実施、WEB会議の実施等、新しい生活様式への取り組みに努めるとともに、感染者等が発生した場合の対応方法について方針を定めました。また、職員の勤務について「新型コロナウイルス感染症に係る勤務及び給与等の取り扱いに関する理事長の定め」を新たに策定し、職員が感染した場合や濃厚接触者となった場合等を想定した勤務の取り扱いについて定めました。

（ハラスメント防止に関する方針の策定）

令和2年6月から職場におけるハラスメント防止措置が義務化されたことに伴い、「ハラスメント防止に関する方針」を策定し、セクシャルハラスメント等の各種禁止行為を定めるとともに、被害者からの相談窓口を設置しました。また、管理者を含む全職員への周知・啓発を行いました。

2 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年5回	開催日	決 議 事 項
第156回	4月 1日	第1号議案 理事長の選定について
第157回	5月25日	第1号議案 令和元年度決算の承認について 第2号議案 定時評議員会の開催について
第158回	9月30日	第1号議案 職員給与規程の一部改正について 第2号議案 臨時職員等取扱規程の一部改正について 第3号議案 朝光苑介護保険システムリースに係る契約締結について
第159回	12月23日	第1号議案 令和2年度補正予算について
第160回	3月23日	第1号議案 みつばすみれ学園障害児等計画相談支援センター運営規程の一部改正について 第2号議案 個人情報保護規程の改正について 第3号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第4号議案 令和2年度補正予算について 第5号議案 令和3年度事業計画について 第6号議案 令和3年度予算について 第7号議案 給食業務委託の契約締結について 第8号議案 通所バス運行管理業務及び日常清掃業務委託の契約締結について 第9号議案 保育園日常清掃業務委託の契約締結について 第10号議案 保育園寝具類賃貸借及び乾燥業務委託の契約締結について 第11号議案 朝光苑紙おむつの購入に係る契約締結について 第12号議案 役員賠償責任保険の継続加入について

(2) 評議員会

開催年1回	開催日	決 議 事 項
定時評議員会	6月9日	第1号議案 令和元年度決算の承認について

(3) 評議員選任・解任委員会

令和2年度中の開催なし

3 監事による監査

開催回数	開催日	内 容
3回	5月20日	決算監査 対象：全施設
	12月25日	中間監査 対象：本部事務局、みつばすみれ学園、すずらん
	1月15日	中間監査 対象：ほんちょう保育園、にいくら保育園、朝光苑

4 複合施設の避難訓練

令和2年度 複合施設避難訓練の実績

日時	開始時間	訓練別			想 定	1次避難場所	訓練内容	みつばすみれ学園 単独の消火訓練
		地震	火災	水害		2次避難場所		
4月 27日(月)	13:30	○			震度4	室内待機	安全確保、状況報告 火気確認、検索	○
5月 15日(金)	13:30		○		1階 厨房から出火	裏駐車場 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索	
6月 10日(水)	13:30	○			震度5強 2階デイルーム天井崩落	裏駐車場 —	安全確保、避難誘導、人数及び状況報告、火気確認 検索、非常持ち出し、災害対策本部設置、重椅子5台避難	○
7月 10日(金)	15:30	救急隊によるAED、心肺蘇生法講習					消防署のAED、訓練の人形を使用 (通常の避難訓練とは別日で実施)	
7月 7日(火)	13:30		○		1階 厨房から出火	裏駐車場 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索、みつばでは靴下避難	
8月 3日(月)	11:00			○	浸水 0.5～1メートル	垂直避難	情報収集、避難誘導、人数及び状況報告 物品搬出	○
9月 8日(火)	13:30		○		2階 食堂から出火	正門前 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索	
10月 7日(水)	13:15	○			震度6強 1階給湯室天井崩落	正門前／裏駐車場 —	安全確保、避難誘導、人数及び状況報告、火気確認 検索、非常持ち出し、災害対策本部設置、重椅子5台避難	○
11月 9日(月)	10:30		○		2階 厨房から出火	裏駐車場 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索、応急処置	
11月 13日(金)	15:30	消防立会による水消火器訓練					消防署に貸出依頼した水消火器による消火訓練	
12月 10日(木)	10:30	○			震度4	室内待機	安全確保、状況報告 火気確認、検索	○
1月 18日(月)	13:35		○		1階 厨房から出火	裏駐車場 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索、応急処置	
2月 9日(火)	13:30	○			震度6強 2階談話コーナー天井崩落	正門前／裏駐車場 —	安全確保、避難誘導、人数及び状況報告、火気確認 検索、非常持ち出し、災害対策本部設置	○
3月 11日(木)	13:35		○		1階 厨房から出火	裏駐車場 —	初期消火、通報、避難誘導、人数及び状況報告 火災受信機作動、非常持ち出し、検索、応急処置	

※ 消防署員の立ち会い → 当初7月を予定していたが、PCR検査の実施や緊急事態宣言の延長などが重なったため実施できなかった。

(複合施設の避難指定場所)

1次避難場所 → 正門前 又は 裏駐車場

2次避難場所 → 隣家

5 各種試験

(1) 職員採用試験（令和2年度中の採用決定者 8人）

職 種	試験内容	試験日	試験結果（入職日）
保育士 又は 児童指導員	面接	令和3年2月4日 2月9日 2月16日	応募者：4人 採用者：2人（令和3年4月1日）
介護職員	面接	令和2年12月8日 令和3年3月9日	応募者：1人 採用者：0人 応募者：4人 採用者：4人（令和3年4月1日）
看護師	面接	令和2年7月3日 令和3年3月5日	応募者：1人 採用者：1人（令和2年9月1日） 応募者：1人 採用者：1人（令和3年4月1日）

(2) 職員昇任審査・試験

項 目（方式）	内 容	審査日・試験日	結 果
主幹級昇任審査（推薦）	勤務評価	令和3年2月 9日	対象者：6人 合格者：1人

6 職員数（令和3年3月31日現在／単位：人）

（ ）は常勤換算の人数

施 設 名	理事長 施設長	事務員		保育士 児童指導員 生活支援員 介護職員		看護職員 機能訓練指導員		栄養士	児童発達支援管理 責任者 サービス管理責任者 介護支援専門員 生活相談員 社会福祉士 運転手 等			合 計	
	正規	正規	パ ー ト	正規	パ ー ト	正規	パ ー ト	正規	正規	パ ー ト	正規	パ ー ト	
本部事務局	1	2	1(0.8)	—	—	—	—	—	—	—	3	1(0.8)	
みつばすみれ学園	1	1	—	5	15(10.5)	1	—	—	3	6(4.7)	11	21(15.2)	
すずらん	1	1	—	11	18(14.8)	1	1(1.0)	—	1	—	15	19(15.8)	
ほんちょう保育園	1	1	—	10	21(14.9)	1	1(1.0)	※2	—	—	13	22(15.9)	
にいくら保育園	1	※1	—	13	16(10.9)	1	—	1	—	—	16	16(10.9)	
朝光苑	1	3	2(2.0)	25	17(14.4)	6	2(1.8)	1	11	4(2.5)	47	25(20.7)	
合 計	6	8	3(2.8)	64	87(65.5)	10	4(3.8)	2	15	10(7.2)	105	104(79.3)	

※1 ほんちょう保育園と兼務

※2 にいくら保育園と兼務

令和2年度 みつばすみれ学園事業報告

1 事業の概要

令和2年度事業計画に基づき、運営に取り組んで参りました。新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、夏祭り・運動会等、大行事を中止するなど療育内容を変更し運営しました。令和2年度は利用児童、職員の感染はありませんでした。

利用状況

施設利用者の多様なニーズへの対応に努めましたが、年間の契約児童数は令和元年度の123人に対し117人でした。定員に対する利用率は昨年度78.1%に対し75.5%でした。利用児の構成はここ数年、幼稚園、保育園を利用しながら学園を（最大2日）利用する（併行利用）児童が半数以上を占める状況が続いています。

利用率減少の原因は、4月から6月にかけて新型コロナウイルス感染予防のため行った、分散登園、自主的な登園控え、さらに年間を通して風邪症状での休み、長期入院等です。

また、前年度は予定クラス人数を超える利用希望があった低年齢児クラス（0～2歳）の利用が少なかったことも原因です。低年齢児は保護者付添いをお願いしているため、保護者の都合により登園できない日があること、兄弟児がいるため、時間の調整が難しく登園できないことなども欠席の要因になっています。課題としている単身登園については、クラス状況を見ながら積極的にすすめ、5歳児（医療的ケア、併行除く）は全日単身を行いました。単身増については職員数とクラス人数のバランス、療育の質を考慮しながら今後も進めます。

専門性の高いサービスの提供

保育士・児童指導員による日々の療育に加え、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、PT（理学療法士）等、専門職による幅広い支援を行いました。令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため、専門職の勤務を調整し、安全を考慮しながらの実施でした。マスク着用での発声など、ST（言語聴覚士）訓練は難しい面がありました。年度計画で予定していたペアレントトレーニングについては、研修が中止になり、保護者との学習会へ進めることができませんでした。

職場内研修では、1年を通して各クラスでテーマを決め、支援内容を発表する機会を設けました。その中で着脱の取り組みは、個々の達成度による対応がまとめられ、クラス変更があった時にも、継続支援ができるよう職員間で支援方法の確認ができました。

また、当学園及び保護者による児童発達支援の自己評価を行い、運営・療育について現状の課題を明らかにし、改善に取り組みました。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の保育園との交流がなかったことが残念だった、という意見がありました。

地域支援の強化

近年、低年齢児の受け入れや保育所・幼稚園に在籍している支援が必要な児童の増加、在宅児童への支援などが継続した課題となっております。当園では、地域のニーズに対応すべく、県からの委託事業「障害児等療育支援事業」を継続実施し、在宅児童への職員派遣が14件、外来での相談件数などが63件、地域の保育所・幼稚園への訪問、来訪を71件行いました。

また、「発達障害地域療育支援センター事業（南西部地域療育支援センター）」との連携を通して、専門職による支援の提供を行いました。両事業とも、新型コロナウイルス感染予防のため、保育園職員との情報交換機会の減少、個別療育を実施する上での問題点（密室、マスク着用、使用ごとの玩具消毒）など様々な課題に対応しながらの活動でした。

2 主な事業の実施状況

(1) 主な年間事業

月例事業	誕生会、地震・火災避難訓練、保護者と施設間連絡会（書面開催）、交流保育（中止）、身体測定、こころの発達相談・整形外科健診(月1回)、内科(2ヶ月1回)、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の指導(週1回・必要に応じ)
5月	クラス懇談会、児童検便(腸内細菌検査)、児童検尿、歯科検診
6月	なし
7月	七夕、父親学級（中止→通常開所）
8月	彩夏祭鳴子踊り参加(朝霞市)（中止）
9月	祖父母参観（中止→通常開所）
10月	運動会(宗岡第三小体育館)（中止）
11月	クラス懇談会、児童検便(腸内細菌検査)、児童検尿、歯科検診
12月	もちつき会（中止）、クリスマス会（内容変更）
1月	父親学級（中止→通常開所）
2月	豆まき、発表会（内容変更）、お別れ遠足（中止）
3月	お別れ会、卒園式（内容変更）

(2) 相談・会議等

相談等	①療育相談／来園・電話相談、個別・訪問・集団療育、健診、機能訓練 ②個別面談、クラス懇談会、保護者と施設間連絡会
会議等	①ケース検討会議、カリキュラム検討会議、クラス会議、職員会議 ②通園バス運行会議、給食検討会議
他機関等との交流	①朝霞・志木・和光市の関係会議(要保護児童対策地域協議会、育成保育関連会議、自立支援協議会、介護給付費等支給審査会、障害者プラン推進委員会等)へ出席 ②和光特別支援学校評議員（書面） ③見学・実習の受入れ（内容変更）、中学生職業体験（中止） ④地域の作品展等(太陽展、志木市総合福祉センターまつり、向陽祭、チャレンジド作品展等)（中止） ⑤施設便りの発行・配布(月1回)

3 利用状況

児童在籍状況（契約児童）

（月初在籍数：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	12月	1月	2月	3月	合計
朝霞市	51	51	51	53	53	53	53	54	53	54	54	54	54	634
志木市	33	33	33	35	34	36	37	38	38	37	37	37	37	428
和光市	20	20	20	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	255
合計	104	104	104	109	108	110	112	114	113	113	113	113	113	1,317
入所者数	18	0	0	5	0	2	2	2	0	2	0	0	0	31
退所者数	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	37	41

4 外部協力・援助等一覧

(1) 寄附一覧(現金)

—敬称略—

R01. 12. 27	栗原 友介	416, 830円
合 計	1件	416, 830円

(2) ボランティア受入れ

通年(製作・保育・付き添い児)	個人(2人)	延べ(55人)
夏祭り	中止	
もちつき大会	中止	
クリスマス会	中止	

(3) 見学研修等受入れと職員派遣

	件 名	実施日数	機 関	延べ人数
受入れ	卒園・退園児の引き継ぎと相談	2日	2機関	5人
	学園療育についての見学と体験	7日	6機関	11人
	学園利用児の様子観察	1日	1機関	2人
	次年度就学児・移行児の様子観察	2日	2機関	5人
	学園見学(入園希望者、電話相談など)	119日	—	119人
	学生の受入(中学生職業体験、卒業論文など)	0日	0機関	0人
派遣	育成保育対象児の様子観察	7日	11機関	11人
	フォローグループの援助	8日	1機関	8人
	学園利用児の様子観察・情報交換	18日	11機関	22人
	学園概要・療育の説明	1日	1機関	100人
	巡回相談(学園以外)	17日	8機関	29人

(4) 実習受入れ

中学生職業体験	なし			
保育士養成実習	延べ103日	9学校	延べ103人	十文字学園女子大学、道灌山学園保育福祉専門学校、淑徳大学、埼玉福祉・保育専門学校、草苑保育専門学校、東京家政大学、埼玉東萌短期大学、東京福祉大学、帝京平成大学
教員介護等体験学習	なし			
看護実習	延べ3日	1学校	延べ32人	朝霞准看護学校

5 障害児等療育支援事業実績（療育相談利用状況）

【職種】児童指導員、保育士

【事業内容】在宅障害児（者）の地域生活支援。療育相談（電話相談／来園相談）、訪問療育、健診／PT訓練、幼稚園・保育所等との相互支援等（埼玉県委託事業）
（延べ回数）

	①在宅支援 訪問療育等指導事業		②在宅支援 外来療育等指導事業			③施設支援 一般指導 事業	①～③ の合計	関係機関 との連携
	巡回相談	訪問健康診査	発達相談	療育	検診			
朝霞市	0	0	23	3	0	35	61	5
志木市	0	0	17	0	0	11	28	17
和光市	14	0	13	4	0	19	50	16
新座市	0	0	0	0	0	4	4	0
その他	0	0	3	0	0	2	5	2
合計	14	0	56	7	0	71	148	40
	14		63					

6 みつばすみれ学園障害児等計画相談支援センターの実績

【職種】相談支援専門員

【事業内容】障害者（児）等への相談やサービス利用計画の作成、モニタリング等の支援
対応件数（初回アセスメント件数）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計
	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	特	児	
新規計画請求	1	14	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	27
更新計画案請求	1	20	1	17	2	29	2	21	2	30	3	21	5	33	3	21	4	31	2	24	1	24	4	71	297
モニタリング請求	3	33	9	61	8	74	5	54	3	34	4	40	0	39	7	29	4	38	8	29	5	33	3	42	520
合計	5	67	10	78	10	103	7	79	6	66	7	61	5	74	10	52	8	69	10	54	6	57	7	113	964

特：特定相談支援

児：障害児相談支援

7 南西部地域療育センターの実績

【職種】臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士

【事業内容】専門職が個別療育やご家族への支援を行う埼玉県からの委託事業（地域療育センター事業）

実績件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
連絡件数合計	2	6	5	28	8	8	7	29	5	2	0	14	114
個別療育①	22	25	62	79	85	91	79	70	78	66	80	88	825
結果と方針の説明②	1	1	4	9	6	6	4	5	5	3	4	5	53
（①+②）	23	26	66	88	91	97	83	75	83	69	84	93	878

令和2年度 すずらん事業報告

1 事業の概要

利用ニーズへの対応

年度途中に2名の退所者があり、年度末の利用契約数は55名でした。利用者の状況及び家庭背景を鑑み、個別送迎や利用時間延長等の利用促進に繋がる必要な支援の取り組みを継続実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス情勢から、利用者・職員のPCR検査による開所日の減少と登所の自粛を選択する家庭もあり、年間利用率は96.5%となり前年度からは9.3%減少の結果となりました。

支援計画策定と介護、相談体制の充実

利用者の意思決定支援に重点を置き、日常的な関わりを通じて感情の表出とその反応を十分に待ち、個々の状況に合わせた支援環境を整えるよう努めました。また、日内変動や精神的に不安定な状況の方へのアプローチが課題となっていることに対し、入念なアセスメントを通じて支援手法のシミュレーションや強度行動障害等に関する研修を重ねて、本人の安心感と心身の安定が得られるよう取り組みを行いました。

個別支援計画書作成においては、感染予防の観点から保護者の来所による内容確認が得られず、書面での交付が主体となりましたが、家庭での状況や利用ニーズの把握に努め、担当の相談支援専門員と連携し、情報の共有化を図りました。

効率的且つ安定した施設運営

年度当初からの緊急事態宣言発令により感染予防及び蔓延防止対策の徹底を行いました。利用者・保護者にとっては安心して通所が出来る環境が何より求められる為、集团的支援から3密を防ぐ再検討と、利用者へは健康チェックカード導入等の体調管理体制を強化しました。日常的にはマンツーマンでの対応が必要なケースもありますが、なるべく対面することを減らしてマスクの着用を促し、特に食事介助の場面では防護体制を充足させ飛沫による感染防止に努めました。

また主要行事については従来通りの開催は叶わず、一部の中止、規模縮小をせざるを得ない事となりましたが、利用者の方へは少しでも楽しんでいただけるよう内容を工夫した代替イベントを実施しました。

近隣地域での感染情報を基に必要な対策を講じてきましたが、実際には利用者・職員において数例のPCR検査実施による開所日の減少の他、登所自粛の状況下も重なり、結果的に介護給付収入が減少となり経営的に課題が残りました。

2 主な事業の実施状況

(1) 主な年間事業

月例事業	誕生会(毎月末に各グループ毎に実施)、製作品販売、地震／火災避難訓練、身体測定、嘱託医診察等(内科、精神科、整形外科)、音楽療法(年6回の内、2回を中止)、理学療法(週1回/緊急事態宣言中は中止)
4月	出発式(開催延期) 歯科検診(中止)
6月	スポーツ&レクリエーション大会(中止) 出発式(リモート形式にて実施)
8月	合同夏祭り(規模縮小、外来者無し、各施設毎に実施)

9 月	定期健康診断(胸部レントゲン、血液検査を含む)
10 月	彩夏祭の中止により鳴子踊り不参加 検便
11 月	すずらん祭り(規模縮小、外来者、家族不参加にて実施)
12 月	もちつき大会(中止) クリスマス忘年会
1 月	初詣
2 月	節分 カラオケ演芸大会(中止/代替DVD作成)
通 年	希望制小旅行/年間予定の全てを中止

(2) 会議等

施設内会議	①職員会議(毎月) ②給食会議(年3回) ③通所バス運行会議(毎月) ④ケース支援・打ち合わせ会議(毎日) ⑤個別支援計画会議(随時) ⑥支援グループ会議(随時) ⑦保護者と施設間連絡会議(新型コロナウィルス情勢により参集形式を中止し書面開催とした) ⑧衛生委員会(年12回) ⑨身体拘束廃止/事故防止委員会(年4回) ⑩医療的ケア委員会(年4回)
関係機関会議	①関係市担当者と施設間連絡会議(書面開催/年2回) ②4市医療職ネットワーク会議(年3回)

3 利用状況

(1) 市別在籍状況(契約利用者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	合計
朝 霞 市	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
志 木 市	29	29	29	29	29	27	27	27	27	27	27	27	334
和 光 市	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
合 計	57	57	57	57	57	55	55	55	55	55	55	55	670
入所者数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所者数	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2

(2) 障害程度別内訳

(R3.3月末)

	(A)	A	B	C	判定無し	計
療育手帳(知的判定)	46	5	2	1	1	55
精神保健手帳の併所持	0	0	1	0	0	1
身体障害者手帳の併所持	28	0	1	1	1	31

	1種1級	1種2級	1種4級	2種1級	2種4級	2種5級	計
身体障害 等級内訳	20	8	1	0	1	1	31

※車椅子使用者20人

4 外部協力・援助等一覧

(1) 寄附一覧(現金)

—敬称略—

期 日	寄 附 者	金 額	備 考
12/27	栗原友介(嘱託医報酬分)	250,098円	
合 計	1 件	250,098円	

(2) 地域との交流

通 年	新河岸川「川の国応援団美化活動団体」清掃活動実施 朝光苑車いす清掃活動(年間全て中止)
6 月	志木市障がい者理解促進事業イベント(中止)
9 月	朝光苑まつり作品販売(中止)
11月	すわ緑風園祭り展示(中止)
12月	障害者週間：和光市チャレンジド展示(中止)

(3) 実習生受入れ

看護実習	延べ 3 日	1 校	延べ 30 人	朝霞准看護学校
介護等体験特例法	延べ 5 日	1 校	延べ 5 人	淑徳大学

※例年行われる中学生の職業体験及び各種大学・専門学校の施設現場実習は学校側からの感染予防対策により全て中止。

(4) 施設見学者(関係機関)

06/19	朝霞市ふれあいセンター	11/17	和光市社会援護課職員特別支援学校教諭
-------	-------------	-------	--------------------

(5) ボランティア受入れ

組紐ボランティア	個人(1人)	延べ18人	畑指導	個人(1人)	延べ 29人
畑の除草等	個人(1人)	延べ5人			

(6) その他

年10回	朝霞市美容師組合ボランティアの会による美容整髪(希望者対象：有料)
------	-----------------------------------

(7) 職員研修実績

区 分	内 容	参加者
外部派遣	※コロナウィルス情勢により参集形式研修は不参加	無し
	障害者支援について(よこはま発達相談室：オンライン研修)	1 名
内部研修	08/24 感染予防と対策(全職員参加)	
	10/26 てんかん発作への対応(全職員参加)	
	11/30 感染症基礎知識と吐物処理(全職員参加)	
	書面開催：介護支援技術(強度行動障害関連)・虐待防止関連	

令和2年度 和光市ほんちょう保育園事業報告

1 事業の概要

令和2年度事業計画にあげた下記の目標に基づいて取り組んできました。

成長に合わせた人的環境設定

令和2年度の在籍児童は、途中入退園がありましたが通年95名でした。新型コロナの流行による登園自粛要請のあった4月から5月、6月の臨時休園期間があったため、年間利用率は80.8%でした。例年とは違い、保護者のご協力による家庭での養育が多く、登園開始時期が夏以降になるお子さんもいました。

成長に合わせた人的環境の設定を試みる予定でしたが、臨時休園の間に保育内容や日常生活について見直しを考え、例年と違う保育の始まりで不安にならないよう、乳児・幼児ともに職員配置に気を配り、個別に応じることが出来る体制をとりました。また、保育室やおもちゃ類の消毒、手洗い場の並ぶ場所にマークをつける、こまめに換気をするなど、安全に配慮した環境の工夫をしました。

豊かな感性や主体性を育むための取り組み

登園再開となってしばらくは散歩などを控えなければならず、代わりに園庭での活動を年齢ごとに時間帯を区切って戸外活動に取り組みました。行事等は中止や縮小はしても、季節行事などは子ども達自身が考えて楽しめるよう話し合いながら少しずつ進め、興味を持続するよう工夫しました。

また、感染予防として乳児の給食時に大人は介助のみで一緒に喫食しない、幼児はテーブルを増やし年長児はパーティションを使用するなどに対応しました。調理保育や配膳活動は中止し、食育の取り組みはプランターで育てた野菜を観察したり、給食の野菜の皮むきの手伝いや行事食について絵本等で伝えるなどしました。製作や絵画なども一斉ではなく、見本提示に興味を示すよう促し、少人数で交代したり日を分けたりして経験出来るよう工夫しました。

障害児保育の推進

障害のあるチャレンジド保育対象児は1名、それ以外にも配慮の必要なお子さんがおり、職員間で児童や家庭の状況把握や対応について話し合いました。保育園以外での関わりのある市役所担当課および各機関と連携し、ケース会議などを通してお子さんとご家族を包括的に支援するよう努めました。これは在園児のみならず、育成一時保育についても同様で、リフレッシュを希望する場合や療育につながる前の段階で集団経験を希望するなどご家族のニーズに合わせながら、お子さんの発達について共に理解していけるよう寄り添う姿勢で保育してきました。

保護者支援・地域支援

新型コロナ感染症対策により、令和2年度は保育参加や懇談会で集まることは中止しました。代わりに、園生活や取り組みについて理解を深めて頂くため、日々の保育の様子をDVDに編集し配布、懇談会は資料配付とし、個別面談時にお子さんの成長や家庭での悩みなどについて共有しました。

例年は幼保小連携や地域のお年寄りとの交流、地域の子育て世帯向けの園解放事業（あそぼう会）など実施するところですが、コロナ対策で未実施となりました。入園前の園見学は、日時と人数を限定しパソコンで写真を見ていただきながら説明し、またホームページに動画を載せる形をとりました。年間通して38人の見学者がみえました。

2 主な事業の実施状況

(1) 主な年間事業 ※新型コロナウイルス感染症対策により、時間を短縮、内容変更し実施。

月例事業	火災避難訓練(毎月)地震避難訓練(隔月)、防犯訓練(年3回) 布団乾燥、誕生会 市内保育園関係会議(事業者連絡会議、看護業務会議、栄養士会議、幼保小連絡協議会、心の教育推進委員会)
	園だより、クラスだより、献立表、保健だよりの発行
5月	クラス懇談会(資料配布)
6月	夕涼み会(5歳児)
7月	保育園運営委員会(書面開催)ほんちょうフェスタ(日中保育内)
8月	大規模地震を想定した児童引き取り訓練
10月	ミニ運動会(児童のみ園庭にて、3～5歳児)
11月	5歳児クラス懇談会(資料配布)、個別面談(土曜日2回、全児童)、消防署立合 火災避難訓練
12月	お楽しみ発表会の代わりに3～5歳児の取り組みDVDを作成、配布
1月	0～4歳児クラス懇談会(資料配布)
2月	節分、保育園運営委員会(書面開催)、味噌作り見学(4歳児)
3月	ひなまつり、卒園思い出遠足、入園説明会、卒園式、お別れ会

(2) 児童の健康管理

- ・ 身体測定(毎月)、内科健診(11月) 5月は臨時休園期間中で未実施、
尿検査(11月)、乳児健診(5月と1月を除いた奇数月) 5月は上記同様、1月は嘱
託先病院にてコロナ発生のため中止
- ・ 歯科検診(6月)
- ・ 手洗い指導、感染症予防についての話(看護師)

(3) 地域交流事業

- ・ 和光市図書館団体貸し出し利用(年2回・各100冊)
- ・ 絵本の読み聞かせボランティア「絵本とお話の会」9、10、11、12、3月の5回実施
- ・ 心の教育推進活動あいさつ運動(1学期は中止)
※市内小中学校との共同事業として各学期の開始時期に1週間ずつ実施

(4) 特別保育事業

- ・ 保育参加 今年度は中止 ※幼児に取り組みDVDとして日頃の保育の様子を配布

(5) 実習生の受入れ

- ・ 保育士実習生 3校・4人 ・ 看護師実習 3人 ※ 入園前の事前見学 38人

(6) 職員研修

- ・ 職場内研修 DVD鑑賞「ハラスメントについて」(法人内勉強会)
虐待について、保護者対応事例検討会、園庭危険箇所について
- ・ 外部派遣研修 県社協キャリアアップ研修(管理者)
保育内容専門研修
→動画配信利用「主体的な保育とは」「ドキュメンテーションの活用」等
和光市主催保育士研修→Zoom研修への参加

3 利用状況

(1) 児童在籍状況

年間開園日数 293日 (土曜日 50日)

月初日在籍児童数 (育成児童／1歳児1人・2歳児2人・3歳児3人) (単位：人)

月 対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3年 1月	2月	3月
0歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
1歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
3歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
4歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
合 計	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95

平均利用率	80.8%	土曜日平均利用者数	5.6人
-------	-------	-----------	------

※家庭の都合による退園 12月 1人 (3歳児)

途中入園 1月 1人 (3歳児)

(2) 育成一時保育事業

発達の遅れに心配のあるお子さんを持つ保護者を対象に、リフレッシュなどの理由で一時的にお子さんをお預かりし保育する事業として、和光市から委託されています。

利用定員は1日3人最大週3日まで、平日の8:30～16:30 (延長時間 16:30～17:00) 利用料金は4時間以内1,200円、その後1時間につき250円が加算されます。

4、5月は新型コロナウイルス感染症対策による影響で利用率が低くなっていますが、利用希望は増加傾向にあります。

(単位：人)

月 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3年 1月	2月	3月	合 計
登録人数	11	11	13	17	19	20	21	19	18	18	18	18	—
利用延人数	4	4	16	45	43	50	64	53	57	47	44	57	484

平均利用率	66.0%	(令和元年度 50.6%)
-------	-------	---------------

令和2年度 和光市にいくら保育園事業報告

1 事業の概要

令和2年度事業計画にあげた下記の目標に基づいて取り組んできました。

安心で安全な保育環境を提供する

令和2年度は在籍者数123人でスタートし、途中の入退園があり年度末は122人でした。新型コロナウイルスの流行による4月の登園自粛要請から5月、6月の臨時休園期間があり年間利用率は87.4%でした。入園からまもなくの登園自粛要請で育児休業の延長が認められ、登園開始時期が大幅に遅れるお子さんもいて例年とは大きく異なる年となりました。臨時休園期間中から生活様式や活動内容の変更があり、行事の中止や縮小などが続きました。保育室や玩具の消毒、こまめな換気などを行い、お子さんの安全な生活環境の維持を図り、保護者にもご協力をいただいてお子さんの健康管理に努めました。

保育内容としては、食事場面ではテーブルにアクリル板を置き、間隔を開けて座るなど感染予防対策を行いました。行事が減った分日常の保育を充実させることを心がけ、子どもたちの主体性を引き出すよう取り組みました。子どもたちが自分からやってみたいと思う内容を深めていくことで活動に意欲的に参加する姿を多くみることができました。

3歳未満児の新入園のお子さんたちは登園開始が遅れたお子さんもいて、個々に合わせた生活リズムで過ごせるようにより丁寧な関りや環境設定に配慮しました。

健康な体作りをしていく

全園児が春から初夏の戸外活動の経験が少なくなり、歩く経験などの不足が感じられた年になりました。体力の低下が感じられた一方で、手洗いやうがいなどが意識づけられた影響からかインフルエンザや胃腸炎などの感染症の流行はほとんどありませんでした。

感染予防の観点から調理保育や配膳活動など中止した食育の取り組みが多くなりました。プランターでの野菜の栽培や、給食に使われるトウモロコシやソラマメの皮むきなどは継続して行い、食材への興味を持つ機会を残すよう取り組みました。季節感のある取り組みとして行っている『味噌作り』は、栄養士が行っている場面を見学し、食材の変化に興味を持つ機会を設けました。

子どもの成長発達について保護者との共通理解を深める

懇談会は書面配布のみとしましたが、個別面談は実施し保護者と直接お話しする機会を作りました。流行状況に配慮しながら短期間でしたが「保育参加」を行い、49人に参加していただきました。保護者が園に足を運ぶ機会が減りましたが様子を知っていただけるよう「写真付きエピソード記録（ドキュメンテーション）」をこまめに出すようにしました。年度末にはそれらをまとめたものを年間のまとめとして冊子にして配りました。

個別な配慮を必要とされるチャレンジ保育対象児が6人在籍し、それぞれの保護者と信頼関係を築くことや関係機関との協力を丁寧に行い、関係者会議や情報共有を行いました。

地域の子育て世帯向けの支援事業である園開放事業（あそぼう会）は実施できませんでしたが、入園前の園見学は人数制限や園内を見て回る代わりに写真を見ていただくなど、方法を変えて実施しました。年間を通して57人の見学者がみえました。

2 主な事業の実施状況

(1) 主な年間事業

月例事業	火災避難訓練（毎月）、地震避難訓練（隔月）防犯訓練（3回）、 布団乾燥、誕生会 市内保育園関係会議（事業者連絡会議、看護業務会議、栄養士会議、幼保 小連絡協議会、心の教育推進会議） 園だより、クラス・グループだより、献立表、保健だよりの発行
4 月	進級式
6 月	保育園運営委員会（書面開催）
7 月	夜まで保育園（5歳児）
8 月	大規模地震を想定した児童引取り訓練
10 月	運動会（4、5歳児のみ時間短縮）、個別面談（5歳児）
11 月	あおむしフェスタ（平日、時間差で全園児参加）、個別面談（1、5歳児） 火災避難訓練（消防署立ち合い）
12 月	個別面談（0、2歳児）
1 月	保育園運営委員会（書面開催）、個別面談（3歳児）
3 月	思い出遠足（5歳児）、卒園式、入園説明会、お別れ会 防犯訓練（県警「ひまわり」立ち合い）

(2) 児童の健康管理

- ・ 身体測定（毎月）、内科健診（7月、11月）尿検査（11月）
乳児健診（5月を除いた奇数月）※5月は臨時休園期間中の為、未実施
- ・ 歯科検診 6月
- ・ 手洗い指導、感染症予防についての話（看護師による）

(3) 地域交流事業

- ・ 和光市図書館団体貸し出し利用（年2回・各100冊）
- ・ 絵本の読み聞かせ ボランティア「ひまわりクラブ」 10月、11月の2回実施
- ・ 心の教育推進活動あいさつ運動 （1学期は中止）
※市内小中学校との共同事業として各学期の開始時期に1週間ずつ実施

(4) 特別保育事業

- ・ 年末保育（12月29日 5人、30日 6人）
- ・ 保育参加（7/1～11/30 延べ参加人数49人）

(5) 実習生の受け入れ

- ・ 保育士実習 5校・7人
 - ・ 看護師実習 2人 ・ 栄養士実習 1人
- ※ 入園前の事前見学 57人

(6) 職員研修

- ・ 職場内研修 配信動画鑑賞後の意見交換会
DVD 鑑賞「ハラスメントについて」（法人内勉強会）
- ・ 外部派遣研修 保育内容専門研修

→動画配信利用「主体的な保育とは」「ドキュメンテーションの活用」等
和光市主催保育士研修→Zoom研修への参加

3 利用状況

年間開園日数 293日（内土曜日 50日）

月初日在籍児童数（育成児童／4歳児2人・5歳児4人）（単位：人）

月 対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月
0歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
2歳児	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	18	18
3歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
4歳児	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
計	123	123	123	122	122	122	122	122	122	122	122	122

平均利用率	87.4%	土曜日平均利用者数	13.4人
-------	-------	-----------	-------

※土曜日平均利用者数には運動会等の行事参加者が含まれる

※転居等による退園 6月 1人（2歳児） 7月 1人（4歳児）

12月 1人（3歳児）

途中入園 8月 1人（2歳児） 1月 1人（3歳児）

令和2年度 朝光苑事業報告

1 事業の概要

令和2年度の事業計画において、以下に示す事業目標を掲げ運営を行いました。

利用される施設となる(利用率の向上)

利用率の目標及び結果は、

① 介護老人福祉施設	(目標) 94%	(結果) 88.1%
② 短期入所生活介護	(目標) 86%	(結果) 60.8%
③ デイサービスセンター	(目標) 85%	(結果) 80.3%
④ 居宅介護センター	(目標) 105件/月	(結果) 72件/月
⑤ 地域包括支援センター	(目標) 132件/月	(結果) 132件/月

① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

特別養護老人ホームでは、新規入所者が29人で前年度と比較して12人増となりましたが、退所者も26人と多く入退所手続き期間の空ベッドが頻回したことや、入院者が多かったことなどにより、利用率は前年度と比較して4.8%の減少となりました。

高齢者の入所施設が多様化したことなどにより特養を取り巻く環境は厳しさを増していますが、公設施設ならではの安心・安全な施設運営などをアピールするとともに、ショートステイとの連携や待機者が早期に入所出来る体制づくりなどを進め、利用率の向上につなげます。

② 短期入所生活介護（ショートステイ）

ショートステイでは、新型コロナウイルス感染症の影響により営業停止の期間があったことや年間を通して利用自粛の方が増えたことなどにより、利用率は前年度と比較して16.3%と大きく減少しました。なお、空床を利用した障害者短期入所の利用者数は、全体の約1%となっています。

新型コロナウイルスの収束が見通せず厳しい状況が続きますが、居宅介護支援センターなどへの空き情報の提供や緊急利用の受け入れなどにより利用率の向上を目指します。

③ デイサービスセンター

デイサービスセンターでは、同様に新型コロナウイルス感染症の影響などにより上半期（4月から9月）の利用率は73.7%と大きく落ち込みましたが、下半期は利用者の自粛等はあまりみられず大きく改善しました。その結果として、年間を通した利用率では、前年度と比較して0.8%減にとどまりました。

利用率につきましては、新型コロナウイルス感染拡大などの状況にも左右されますが、利用者の機能訓練など自立支援・重度化防止につながる取り組みや、レクリエーションなどの充実により、地域で選ばれるデイサービスセンターを目指します。

④ 居宅介護支援センター

居宅介護支援センターでは、介護支援専門員の人員確保ができず、ケアプランの目標件数をクリアできませんでした。

今後は、人員体制を配置転換により3人体制とし、介護を必要としている人が適切な生活支援を受けられるようケアプラン作成や各種介護サービスに関する手続きなどを行います。

⑤ 地域包括支援センター

地域包括支援センターでは、介護予防ケアマネジメント、総合相談、権利擁護、包括的・継

続的ケアマネジメント業務のほか、地域包括ケアシステムの構築に向けた包括的支援事業として、生活支援サービス体制の整備事業、認知症施策の推進事業、地域ケア会議推進事業などを市と連携して推進しました。

地域包括支援センターは地域福祉を支える要としての役割を担うことから、市・関係機関及び地域住民と連携しながら、専門職員1名の増員を含めセンターの機能の強化を図ります。

職員の確保と定着育成

介護業界全般で人手不足が深刻化しており、人材確保及び職員定着促進は急務となっています。専門職の人材確保として、ホームページを活用した情報発信のほか、市広報、求人サイト、折り込み広告などにより介護を担う職員の確保に努めた結果、正規職員については定数を確保することができました。引き続き、利用者一人ひとりに質の高いサービスと安定した介護サービスを確保するため、各種専門職の採用活動等を積極的に行います。

また、働きやすい環境づくりなどをはじめとして、各種研修を計画的に実施しプロ職員としての必要知識・技術等を修得することなどにより職員のモチベーション向上及び定着促進を図ります。

2 各事業の実施状況

(1) 主な年間事業

各種委員会などについては概ね予定通り実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により入居者・利用者に季節感を感じてもらえるような外出活動やボランティア参加型のレクリエーション活動などは中止となりました。

区分	介護老人福祉施設（特養）	デイサービス	その他
月例事業	誕生会、注文買物、理髪、口腔衛生指導（以上は月1回）、 嘱託医健診（内科/週1回、精神科/月2回）、 理学療法（月2回）、特養ラインカンファレンス（年23回）、新入所者ラインカンファレンス（年20回）、優先入所検討委員会（月1回）、身体拘束廃止委員会（年4回）、感染症対策委員会（年4回）、給食委員会（年4回）、痰吸引安全委員会（年4回）、褥瘡対策検討委員会（年4回）、事故防止対策委員会（年4回）	誕生会、PTリハビリ、 体重測定、デイ定例会議（月1回）、事故防止対策委員会（年12回）、感染症対策委員会（年4回）	朝光苑運営会議（月1回）、衛生委員会（月1回）、苑だより発行（年4回）、地域包括定例会議（月1回）
4月	料理クラブ		
5月	菖蒲湯、端午の節句、記念植樹、母の日	菖蒲湯	一斉緊急メール訓練
6月	料理クラブ、父の日	梅ジュース作り	
7月	七夕飾り、すいか割り	すいか割り	苦情解決委員会、火災訓練、全体会議
8月	料理クラブ		職員健康診断、地震訓練
9月	朝光苑まつり＊中止		ストレスチェック、防犯訓練
10月	料理クラブ、歯科検診、胸部レントゲン撮影		夜間火災避難訓練

11月	インフルエンザ予防接種	サンマ焼き	職員インフルエンザ接種、緊急メール訓練
12月	年末お楽しみ会、ゆず湯、料理クラブ	年末お楽しみ会、ゆず湯	全体会議
1月	正月遊び、書初め	餅つき	生活習慣病健診(12月～2月)
2月	料理クラブ、豆まき	豆まき、フラワーアレンジメント	
3月	ひな祭り		職員腰部健診、一斉緊急メール訓練、地震訓練、職員健康診断

(2) 利用状況

朝光苑各事業の令和3年3月31日現在の利用状況は以下のとおりです。

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

(ア) 在籍状況等（単位：人、％）

(定員 75 人)

月 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
当 月 初	70	68	69	68	69	69	70	74	73	73	70	69	—
入 所 者	2	2	2	2	2	3	4	1	1	1	3	6	29
退 所 者	4	1	3	1	2	2	0	2	2	3	4	2	26
(内、看取り)	3	1	2	1	1	0	0	2	1	1	1	1	14
当 月 末	68	69	68	69	69	70	74	73	72	70	69	73	—
月別利用率	89.6	87.4	86.9	85.1	84.7	84.9	92.2	92.2	91.4	86.9	84.2	90.9	88.1

※（目標利用率：94％・年間利用率：88.1％）

(イ) 男女別構成（年度末現在）

区分	男	女	計
人数	15人	58人	73人
割合	20.5％	79.5％	100％

(ウ) 平均要介護度（月別）

※平均要介護度： 3.9

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
性別	男	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7
	女	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0
平均	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9

(エ) 年齢別構成（年度末現在）

※平均年齢：85.0 歳

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
人数	2人	17人	35人	17人	2人	73人
割合	2.7％	23.3％	48.0％	23.3％	2.7％	100％

(オ) 在苑期間別構成 (年度末現在)

※平均在苑期間： 2 年 8 ヶ月

期間	6ヵ月未満	6ヵ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年以上	計
人数 (人)	15人	9人	24人	15人	9人	0人	1人	73人
割合 (%)	20.6%	12.3%	32.9%	20.5%	12.3%	0%	1.4%	100%

②短期入所生活介護事業 (ショートステイ)

(ア) 高齢者・障害者別利用況等 (単位：人、%)

(定員 14 人)

月 人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	高齢者短期	24	8	27	29	31	32	31	31	26	29	31	35	—
	介護予防	0	1	1	1	1	3	3	3	5	2	2	2	—
	障害者短期	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	—
延べ人数	高齢者短期	221	94	249	231	272	259	288	266	264	255	273	294	2,966
	介護予防	0	2	2	2	2	12	21	22	20	10	12	10	115
	障害者短期	9	0	12	6	0	0	0	0	0	0	0	0	27
	計	230	96	263	239	274	271	309	288	284	265	285	304	3,108
月別利用率		54.8	22.1	62.6	55.1	63.1	64.5	71.2	68.6	65.4	61.1	72.7	70.0	60.8

※1 日平均利用者数：8.5 人 (目標：利用率 86%・年間利用率：60.8%)

③デイサービスセンター事業

(ア) 利用状況等 (単位：人、%) 開所日／298 日

(定員 25 人)

月 人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用契約者		78	75	76	74	75	72	78	75	71	70	73	73	—
内、通所相当サービス		16	15	17	16	15	17	18	16	13	13	13	12	—
延べ利用者数		457	253	518	435	463	489	569	487	528	510	490	584	5,783
内、通所相当サービス		82	31	83	73	75	84	105	98	74	71	58	63	897
月別利用率		73.1	53.3	79.7	79.4	74.1	78.2	84.3	84.7	88.0	85.0	89.1	89.8	80.3

※1 日平均利用者数／20.1 人 (目標：利用率 85.0%・平均利用率：80.3%)

④居宅介護支援センター事業

(ア) ケアプラン作成件数 (単位：件)

月 件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援件数		70	69	69	69	68	69	73	72	69	73	72	73	846
介護予防支援件数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	15
認定調査件数		0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2

※(目標件数：105 件/月・月平均：71.8 件)

⑤地域包括支援センター

(ア) ケアプラン作成件数 (単位: 件)

月 件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護予防支援件数	124	118	133	135	129	135	139	138	134	132	127	139	1,583
内、介護予防・日常生活総合事業ケアマネジメント	73	65	73	76	72	75	77	75	73	70	70	71	870
訪問型及び通所型サービスC	0	0	2	0	0	2	0	0	4	1	0	8	17
住宅改修理由書作成件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※介護予防支援件数(目標: 132 件/月・月平均: 132 件)

(イ) 包括支援センター業務

業 務	主な実績等
総合相談・支援業務	相談業務(9,839 件) 地域支え合いネット講座(2 回・参加者 38 人)
権利擁護業務	成年後見講座(1 回・参加者 14 人)
包括的・継続的ケアマネジメント業務	ケアマネージャー支援講座(1 回)
介護予防ケアマネジメント業務 (第 1 号介護予防支援事業)	要支援者のケアプラン作成
在宅医療・介護連携推進業務	多職種による地域支援ネットワークの構築 在宅医療・介護連携推進会議(1 回) 在宅医療・介護連携推進に係る作業部会(3 回)
生活支援体制の整備業務	生活支援コーディネーター配置(1 名) 生活支援コーディネーター会議(15 回) 地域民生委員情報交換(9 回)*4~6 月中止 よろず屋(第 2 層協議体)(8 回)*4~6 月中止
認知症施策の推進業務	認知症サポーター養成講座*中止 オレンジカフェ*中止 認知症初期集中支援チーム検討会(9 回) 認知症地域支援推進員(6 回)
地域ケア会議	市主催地域ケア会議(10 回) 包括主催地域ケア会議(4 回)
一般介護予防事業	朝霞 1 中体操教室*中止 介護予防ミニ講座(14 回・延べ参加者 149 人)

(3) 外部協力・援助等

(ア) ボランティア受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策により、ボランティア活動は年間を通し中止としました。

(イ) 地域との交流等

新型コロナウイルス感染症対策により、地域との交流等は年間を通し中止としました。

(4) 実習生の受入れ

十文字学園女子大学(2 人)	合計 2 人 (延べ 10 日)
----------------	------------------

※新型コロナウイルス感染症対策により実習受け入れを制限しました。

(5) 面会者数

区分	延べ人数	備 考
来苑による面会	123人	R2. 5. 21～11. 20のみ面会可とした
LINEによる面会	182人	R2. 5からLINE面会開始した ※テレビ電話方式

※新型コロナウイルス感染症対策により来苑による面会を制限しました。

(6) 人材育成

研修内容	参加人数
新任職員フォローアップ研修	0人
中堅職員キャリアパス研修	4人
中堅職員Ⅱキャリアパス研修	0人
チームリーダーキャリアパス研修	2人
計	6人